

<目的>寝たきり老人の寝具を検討する際には、老人の睡眠の特徴を把握することが必要となるが、報告された例は非常に少ない。本研究は、寝たきり老人の睡眠中の体動を記録して、その特徴を把握しようとするものである。又、健常人との比較を試み、寝具のあり方について検討を行った。

<方法>被験者は、特別養護老人ホーム入居中の男女各3名計6名である。寝たきりの症状は重く、常時臥床の状態にあった。体動の測定は、各人の居室で行い、1時間あたりの体動数、平均静止時間および最大静止時間を求めた。測定日は、1987. 7. 21～8. 2であり、時間は、日中9:30～16:00 夜間22:00～8:00であった。尚、介護による体動は、被験者の体動とみなした。

<結果>1) 1時間あたりの体動数(夜間)は、1.4回～7.8回、平均静止時間(夜間)は、8.4分～66.0分、最大静止時間(夜間)は、53.1分～213.9分となった。2) 健常人を対象とした同季の夜間睡眠の実験結果と比較すると、1時間あたりの体動数(夜間)は健常人の方が多く、平均静止時間(夜間)および最大静止時間(夜間)は、老人の方が長い結果となった。3) 以上の結果、寝たきり老人の体動は、健常人と比較すると少ない傾向にあるが、皆無ではないことが判明した。しかし、最大静止時間は、120分以上示す者もあり、このような老人に対しては、体圧分散を目的とした寝具の使用が有効であると考えた。